
レッドストリングス

禮夢來兔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レッドストリングス

【Nコード】

N1258A

【作者名】

禮夢來兎

【あらすじ】

ショートショートです。わずかな暇つぶしになってくれると幸いです。

僕は去年大学を卒業したが、不況の煽りを受けて未だに定職に就けていない。

どれもこれも、僕の優柔不断さが招いたのだが、単純に不況のせいだと思うことで心の平静を保っている。

そんな僕の目に映るのは、カップルばかり。幸せな奴が恨めしいと思う気持ちが招く事象だ。

そんなある日、彼らの小指に、なにか赤い筋のようなものが見えることに気がついた。

それが、糸だと気付くのにには時間がかかった。

赤い糸といえば、恋人同士を結んでいるあれだが、何故そんな物が見えるようになったのだろうか。

考えても分からないが、とにかく、そういうものがあるんだと言うことだけ思った。

ある日、それらの糸に法則性が無いことに気がついた。

カップルだけに結ばれているかと思えば、遠くまで延びて結ばれている事もあったのだ。

さらに、赤い糸で結ばれていないカップルもいることに気がついた。

はて、この赤い糸とはなんなのか。全く分からないまま時間は過ぎていった。

「やあ、貴方も赤い糸が見えるそうですね」

ある日、よく分からない男が僕に声をかけてきた。

誰に話したこともないはずなのに、どうして僕のこと分かるのか不思議だった。

「そのとおりですが、どうしてそんなことを知っていらっしゃるの

ですか？」

「ははは。蛇の道は蛇と言いましてね。色々と有るんですよ。しかも、今の貴方は定職にも就いていないようですね」

僕はその言葉にムツと来たが、事実なので反論もできない

「いい仕事があるんですよ。貴方の能力が必要なのです」

「ははあ、私の能力がですか。この能力を生かすとなると、恋占いですか……」

と、僕は以前小説で読んだ内容を口にしてみた。それは、以前仕事にしようかとも思っていた。

だが、全部が全部の人間に赤い糸がついていないのが分かった時に、その考えも失せた。

恋が実らないことばかりを占いで知らせるなんて、あまりいい気分ではないからだ。

それに、実る恋を教えてくださいえない恋占いなど、あるものか。

「ははは。全然違いますよ。そもそも、その能力はそんなことに使うべきではないのです。とにかく、貴方に渡さなければならぬ物がありますね」

そうして、僕の手に渡されたのは、はさみだった。

「それで赤い糸をみんな切ってしまうのです。これは、簡単な仕事でしょう。歩合制ですが、かなりの額をだしますよ」

そこで提示された額は、相当な物だった。理由はともかく、断る意味は無かった。

「やりましょう。しかし、何故こんな事をやるのか、教えてはくれないのですか」

すると、男は笑って答えた。

「これは国家的な陰謀でしてね。こうして赤い糸を断ち切れば、ンドンと縁と言う物が切れていくのです。そうすれば、この国の出生率が下がっていくでしょう。ただでさえボロボロのこの国から若者が減っていけば、こっちは好都合なのです。全てのカップルに赤い糸が見えないのは、実は私達がンドン切っているからなのです

よ……」

これはやばい……と思ったが、断れないことに気がついた。僕の方を見ている、何人かの黒服の男がいるのに気がついたからだ。目つきが悪いから、多分、思った通りの人間達だ。

「ドンドン切りまくって下さい。時間がかかっても、確実にやりたいですよ……」

男、日本人だと思ったが、どうも違うようだ。東洋系としか表現できないのだが。

ともかく、すぐに行動せねばなくなった。なんだか、とんだことになったと思った。

しかし、どうでもいいか……とも思った。

どうせ僕には赤い糸など無い。やつらが切ったのだろうが、だったら、僕だって他の人間の奴を切ってやらねば気が済まない。

国家の陰謀云々よりも、うつつを抜かしている幸せな奴らの方が何倍も憎い。

僕は、手始めに、すぐそこにいたカップルの赤い糸を切ってやった。

気のせいかな、漂っていた甘い雰囲気、ただのたるそうな二人の雰囲気になった気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1258a/>

レッドストリングス

2010年11月27日18時50分発行